

※出品資格が変わりました。
また、半切の横が可能になりました。ご活用ください。

- 出品資格：一般初段以上および高校生。●用紙サイズは半切縦か横、角半のいずれか。
- A・B課題は同時出品可能。同時出品の場合は出品券の下部にA・Bを明記すること。
- 条幅出品券を作品の右下に必ず貼付すること。(作品の裏右下には鉛筆で段位と氏名も忘れず記入)

前回に続き落款についてです。私かなの半切作品を習い始めた頃は、落款は印のみでなく、漢字作品同様に「名前書」と入れていました。ある時、先輩の先生から「最近記名すると重くなるので印だけ」と教えていただきました。それから四十年近く、今また、大きな公募展でのかな作品には、記名されている作品が多く見られます。これは服の流行と同じで、三十年ごとに回ってきた？それもあるかもしれませんが、やはり、作者名を明瞭にするためかと思われます。色々な書展で注視してみてください。

かな部 次号課題

A 咲けば散るさかねば恋し山ざくら

思ひたえせぬ花のうへかな (中務)

・咲けばそれが散って物思いをさせ、咲かなければ咲いた姿が恋しくなる山桜よ。物思いをいつもさせる花であることよ。

B 枯枝に湧く白雲や百千鳥

(原石鼎)

・木々はまだ冬枯のままであるが、諸鳥が囀っている。枯枝のむこうにわく白雲は確かな春の雲である。

優秀作品

〈師範・準師範の部〉



奥本貴祥 安定した文字配置と構成で、余裕の筆致で素晴らしい。

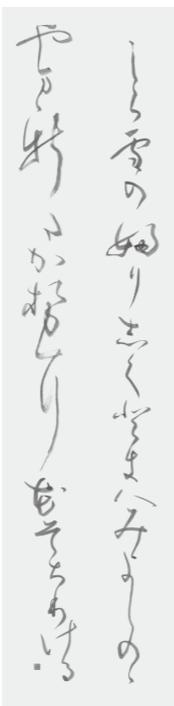


八幡翠柳 各段の行頭行末の凹凸が美しく、墨色との相乗効果で秀作。

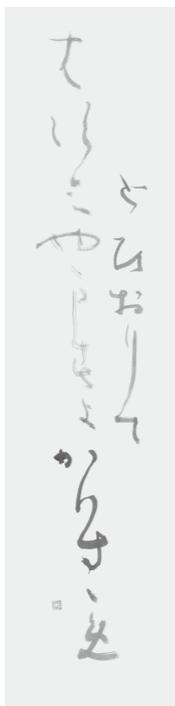
〈修士以下の部〉



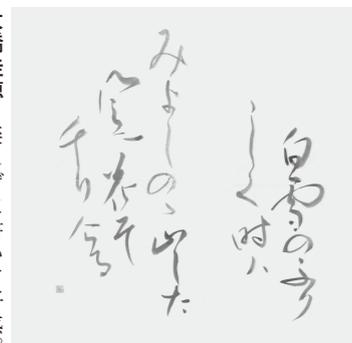
天川青扇 文字の大小変化と狭い字間で躍動感と緊張感を出している。



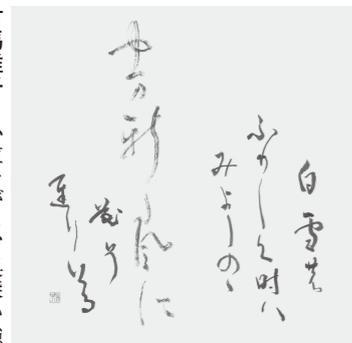
佐々木 優 高野切風の連筆で気脈一貫。繊細で流麗にまとめた。



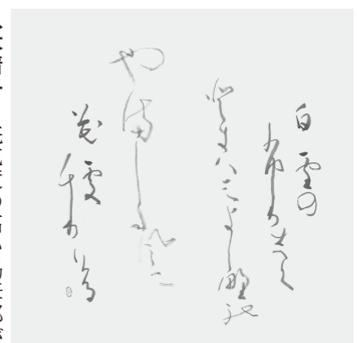
小野内亜希子 柔らかな連筆で素朴な雰囲気仕上げた。



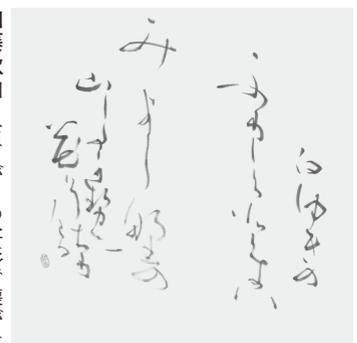
大橋佳穂 楽しげに書いて好感。「ハ」花「介」の左払いは止めるが良い。



有馬雅子 小粒ながら、奥深い強い線で上品にまとめた。



八木清子 完成度の高い渴筆部が作品の主軸となつて、堅実で堅調。



加藤歌由 右下がりの字形で懐が豊かになり、大らかな明るい作となった。



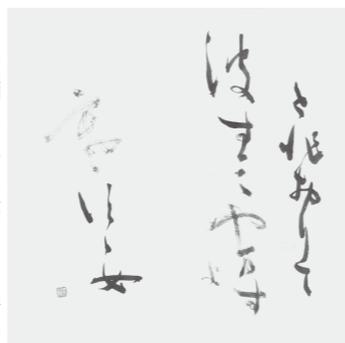
坂東梢葉 的確な文字の大小、長短の工夫で、淀みない流れが出て秀逸。



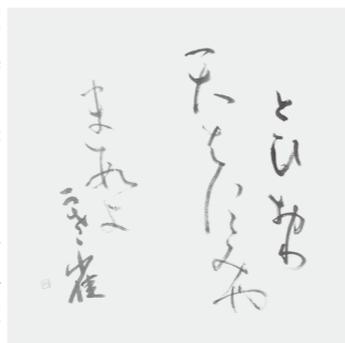
森川珠房 滑らかな線と温和な連筆で清澄優美な作となった。



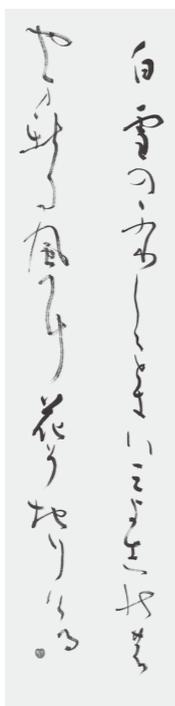
中川千賀子 用筆巧みで、行の揺れと間合い、墨色の美しさが魅力的。



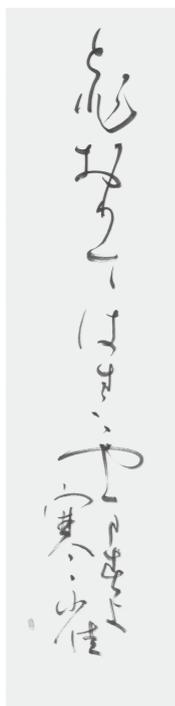
中居大輔 前半の独特の強い線で充実感が表出。俳句らしい作風となった。



坂 泰 中央と周囲の余白が適当で、上手く紙面に纏まった。



金城翠苑 濃い墨で小さく細く書いて、格調高く仕上げている。



山下燦雨 構え大きく連筆のリズムが生きていて明るく爽やか。



川口翠泉 ケイタイと書き進めて縦の流れが美しい。墨つぎの「花」は小さく。